

海外留学生 就職活動調査 2004
国内大学生との比較から見る、海外留学生の就職意識・就職活動の特徴

〒104 - 8001 東京都中央区銀座8-4-17
 株式会社リクルート
 HR首都圏ディビジョン
 水谷 智之

この度リクルートでは、リクナビ登録会員のうち、2004年4月～2007年3月までに卒業(予定)の留学生に
 対して、就職意識・就職活動についてのアンケート調査を実施いたしました。
 その集計結果がまとまりましたので、ここにご報告させていただきます。

調査結果の概要

国内大学生に比べ、海外留学生のキャリア意識の高さが浮き彫りに。

・就職先選択の条件として海外留学生の方が強く意識する項目
 (国内大学生との意識差が大きな上位2項目)

	【海外留学生】	【国内大学生】
自分の経験・専門が生かせる	61.8%	30.7%
仕事の成果や業績が正当に評価される	52.1%	33.6%

・就職先選択の条件として国内大学生の方が強く意識する項目
 (海外留学生との意識差が大きな上位2項目)

	【海外留学生】	【国内大学生】
順調に業績を伸ばしている	28.9%	41.4%
企業そのものや商品がブランドとして広く認知されている	22.9%	35.4%

・海外留学生の約6割(58.8%)が「規模にはこだわっていない」と回答。

国内大学生と比較して、海外留学生が、企業の知名度や規模よりも仕事のやりがいや海外で培った知識・専門性を活かせるかが重視されており、キャリアとワークスタイルに対する意識の違いが浮き彫りとなった。

日本へのUターン就職が増加。

勤務地に日本を希望する海外留学生が、31.5%と2年前に比べ9.2%増加している一方で、日本以外の国で働きたいという学生は、13.0%と8.5%減少している。
 背景として、2001年にアメリカで起きたテロ等、国際情勢の影響や、現地での労働ビザ取得が困難になったことの影響も、大きな要因と考えられる。

2004年6月までに卒業予定の海外留学生の73.7%が内定未取得。

就職活動を行っている海外留学生のうち、1社も面接を受けていない学生が半数以上(59.2%)に上る。
 国内大学生に比べ、大学のカリキュラムや卒業時期が日本と異なる海外大生は日本での就職活動の機会が非常に限られていることが影響しているようだ。

【目次】

・ プロフィール	
・ 男女の比率	P.3
・ 年齢構成	P.3
・ 卒業予定時期	P.3
・ 日本での最終学歴	P.3
・ 海外留学生の就職意識	
・ 就職先選択時の重視条件	P.4
・ 企業規模に関する希望	P.5
・ 勤務地に関する希望	P.5
・ 海外留学生の就職活動	
・ 就職活動の状況	P.6
・ 就職活動のためにアプローチした企業社数	P.6

【調査概要】

調査対象

『リクナビ2005』(注1) 登録会員のうち、日本以外の大学 / 大学院で学位を取得(予定)の日本人留学生4288名(卒業時期は、2004年4月～2007年3月予定)

(注1) 大学生・大学院生のための就職情報サイト URL: <http://www.rikunabi2005.com/05/JP/>

調査方法

オンラインアンケート

(リクナビ会員に対してEメールで告知の上、『リクナビ2005』上のアンケートページにて回答を募集)

実施期間

2004年3月12日 - 2004年4月1日

有効回答数

686件(16.5%) 各データは無回答サンプルを除いて集計

【比較した国内学生調査の概要】

就職ジャーナル版「就職白書2003」

調査対象: 2004年3月卒業予定の(日本)全国4年制大学生14,000名

調査方法: 郵送法 集計人数: 1,420名 調査期間: 2003年9月12日 - 2003年10月3日

実施: 株式会社リクルート 就職ジャーナル編集部

リクナビ 就職プロセス調査

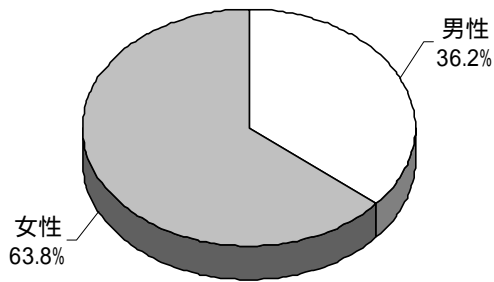
調査対象: リクナビ登録者のうち、2004年3月卒業予定の大学生(2003年1月度および6月度調査)

調査方法: インターネット調査 調査期間: 2003年1月29日 - 2月2日、2003年6月25日 - 7月1日

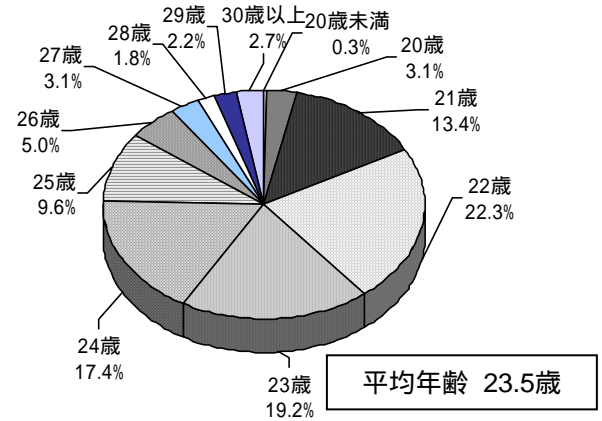
実施: 株式会社リクルート メディアプロデュース1部

プロフィール

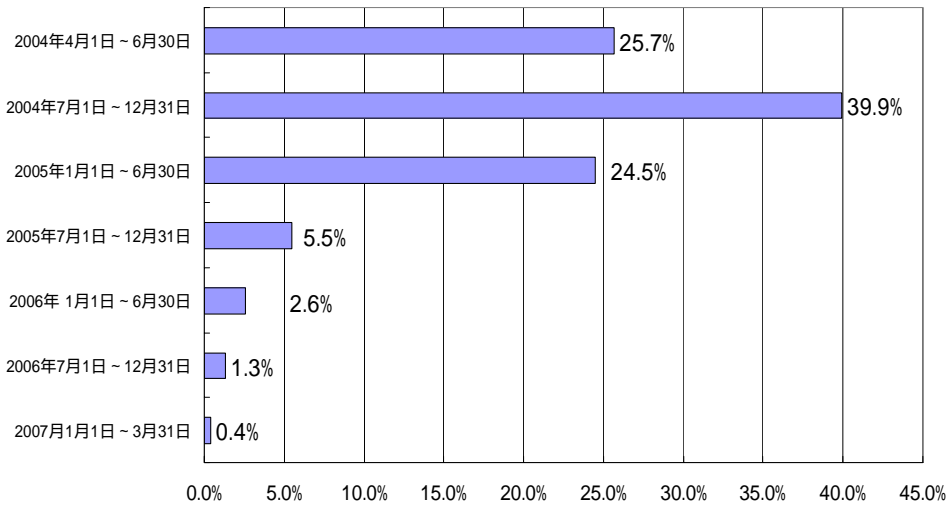
男女の比率 (N=686)



年齢構成 (N=678)

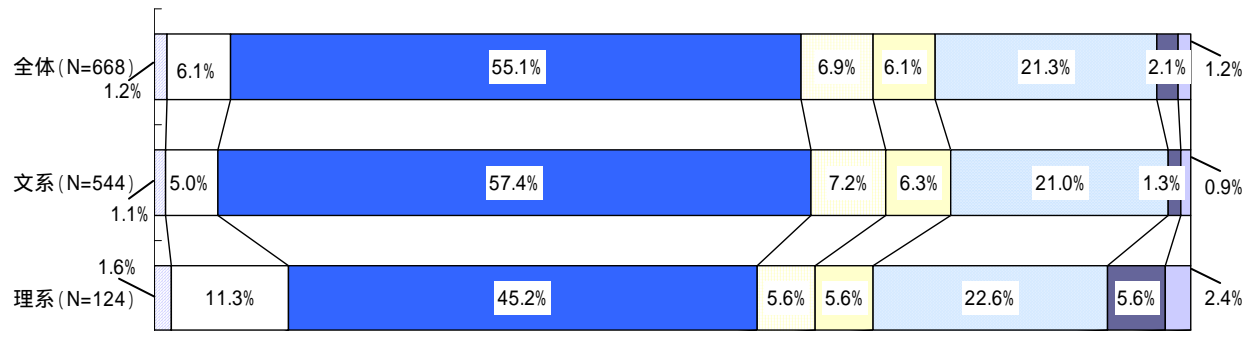


卒業予定時期 (N=686)



日本での最終学歴 (日本で生まれ育った者N=668)

□小学校 □中学校 ■高等学校 □専修・各種学校 □短大・高専学校 □大学 ■大学院 □その他



海外留学生の就職意識 <就職先選択時の重視条件>

海外留学生は、国内大学生と比べて、「企業の認知度」や「業績」などよりも、「仕事のやりがい」や「専門性」について重視しているといった、キャリア意識の高さがうかがえる。

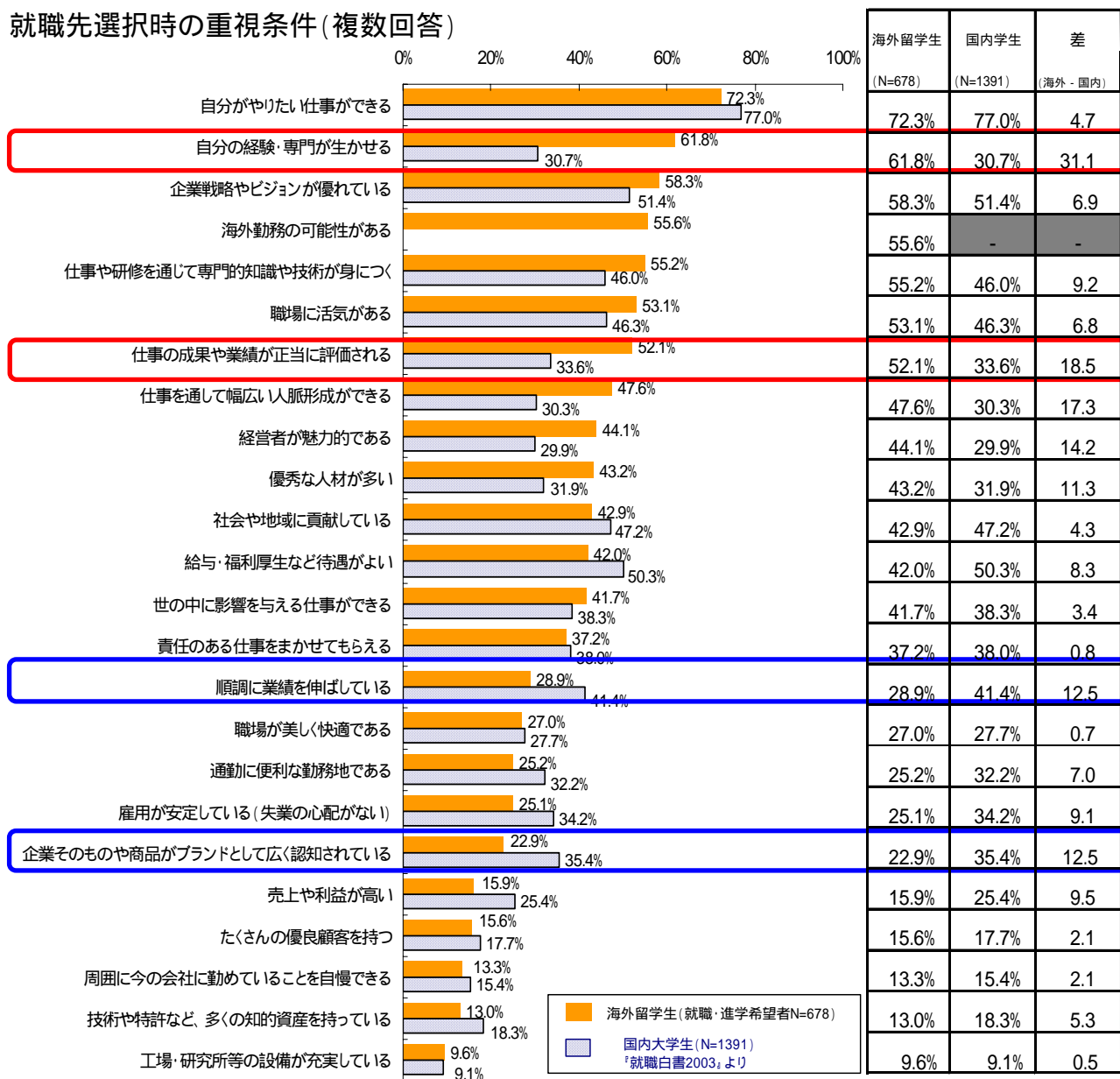
・海外留学生の方が強く意識する項目

	[海外留学生]	[国内大学生]
自分の経験・専門が生かせる	61.8%	30.7%
仕事の成果や業績が正当に評価される	52.1%	33.6%

・国内の大学生の方が強く意識する項目

	[海外留学生]	[国内大学生]
順調に業績を伸ばしている	35.4%	41.4%
企業そのものや商品がブランドとして広く認知されている	22.9%	35.4%

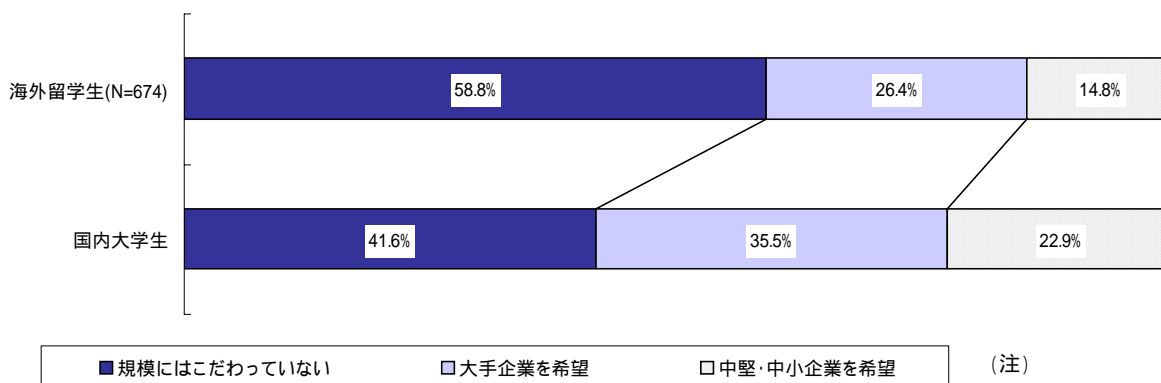
就職先選択時の重視条件 (複数回答)



- 海外留学生の就職意識 < 企業規模に関する希望 >

海外留学生の約6割(58.8%)が「規模にはこだわっていない」と回答。
国内大学生に比べ、「企業規模にはこだわらない」と回答した人の比率が17.2ポイント高い。
これは、海外留学生が、企業の知名度や規模よりも仕事のやりがいや海外で培った知識・専門性を活かせるかを重視する傾向が高いと考えられる。

企業規模に関する希望 (就職・進学を希望している者N=674)

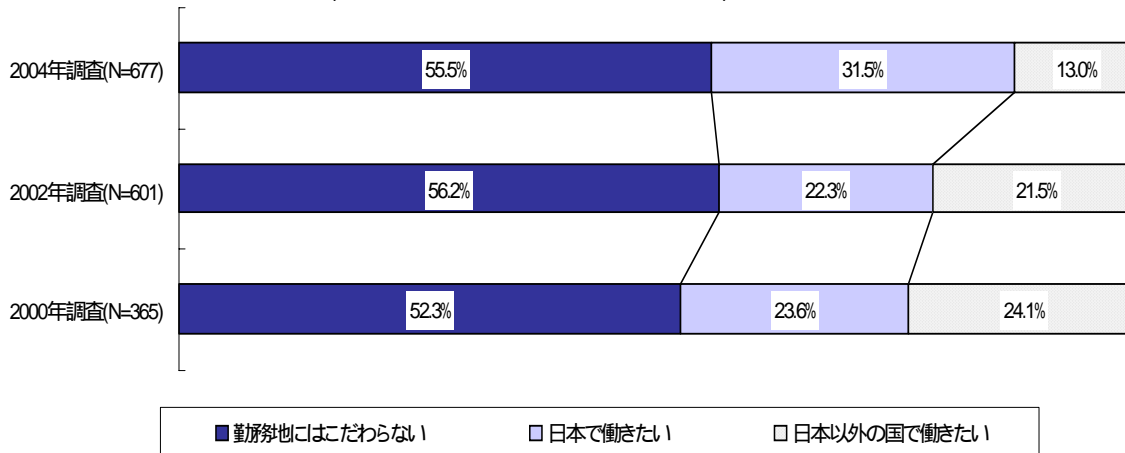


(注): 企業規模
 大手企業: 従業員1000人以上
 中堅・中小企業: 従業員1000人未満
 国内の4年制大学生:
 就職プロセス調査(2004年3月卒業予定の4年制大学生)
 2003年6月末時点の意向

- 海外留学生の就職意識 < 勤務地に関する希望 >

勤務地に日本を希望する海外留学生が、2年前に比べ約10ポイント増加。
背景として、2001年にアメリカで起きたテロ等、国際情勢の影響や、現地での労働ビザ取得が困難になったことも大きな要因であろう。また「日本以外の国で働きたい」と回答する学生も、4年前から減少傾向にある。

勤務地に関する希望 (就職・進学を希望している者)



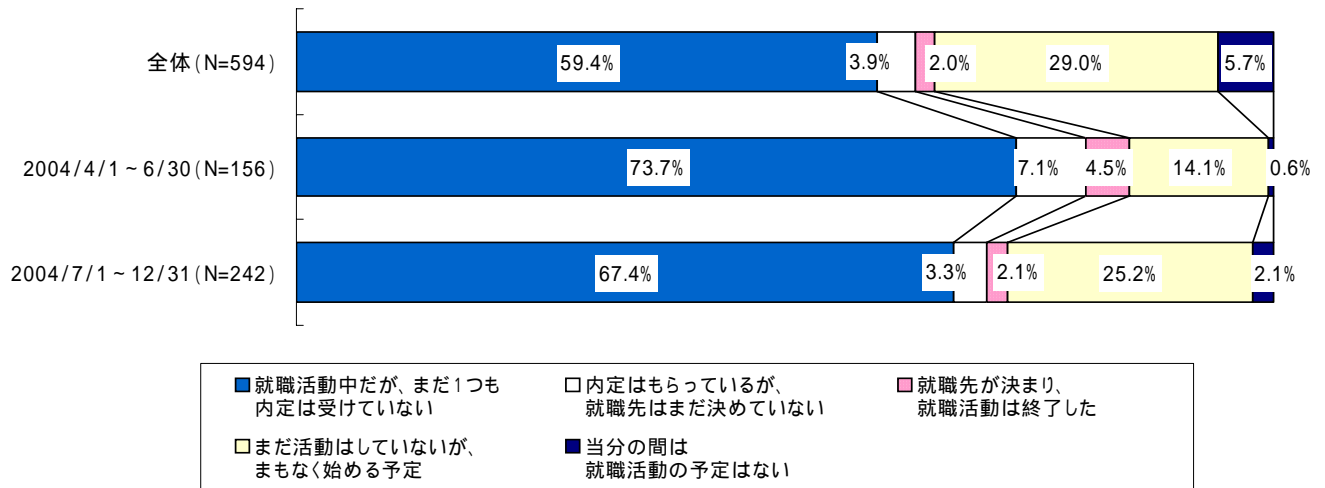
海外留学生の就職活動 < 就職活動の状況 >

2004年6月までに卒業予定の海外留学生で、就職を希望する学生のうち、73.7%が、2004年3月時点で内定を1社も持っていない。
就職活動を行っている学生のうち、1社も面接を受けていない学生が半数以上(59.2%)に上る。

国内大学生に比べ、大学のカリキュラムや卒業時期が日本と異なる海外大生は日本での就職活動の機会が非常に限られていることが影響しているようだ。

就職活動の状況(就職活動をしている者)

< 卒業時期別 >



就職活動のためにアプローチした企業社数(就職活動をしている・終了した者)

